

報第6号

令和7年度以降の
事業実施予定について

コミュニティバス待ち場デジタルサイネージ設置について

★羽島市地域公共交通計画（令和7年3月策定）

課題4 外出を支援する公共交通の構築

公共交通を利用するハードルの軽減

- 真夏日や降雨時でも安心してバスを待てる環境の整備



施策3 利便性向上に関する取り組み

事業3-4 バス停の待合環境の改善

羽島市役所と羽島市民病院の施設内待合スペースに
バスの到着時刻がわかるデジタルサイネージを設置します。



施設内で暑さや寒さを気にせず
バスを待つことができる！

※岐阜県地域公共交通DX推進事業費補助金を活用（補助率 2分の1）

コミュニティバス見直しに関する方向性について

★羽島市地域公共交通計画（令和7年3月策定）

施策1 運行サービスの改善に関する取り組み

事業1-1 コミュニティバスの路線・ダイヤの見直し

- コミュニティバスの運行を確保・維持し、さらなる利便性の向上を図るため、コミュニティバスの路線やダイヤの見直しを行います。

（見直しの考え方）

- ・ 需要と輸送力のバランスが取れた路線網を構築します。
- ・ 財政状況や運転手不足等の現状も考慮した持続可能な公共交通体系を構築します。

事業1-2 民間と連携した運行形態や新たな運行方式の研究

- デマンド型交通実証実験の結果等を踏まえ、民間と連携した地域公共交通確保の可能性や、定時定路線以外（デマンド型交通、公共ライドシェア等）の新たな運行方式導入の可能性を検討し、地域にあった運行サービス導入に向けた研究を行います。

コミュニティバス見直しに関する方向性について

検証内容

- 令和6年度のコミュニティバスの利用者数については、現行の路線へ変更後10年が経過し、利用の定着化が見られ、コロナ禍前の傾向から推計した年間利用者数と比べると高い水準となっている。
- デマンド型交通の実証実験結果およびデマンド型交通に関する市民アンケートの結果から、現状、定時定路線がデマンド型交通に対して優位性が高い。



コミュニティバスについて大幅な変更は行わず、持続可能な対応を検討する。

対応方針

★運転手不足への対応

- 既存の路線におけるバス停ごとの利用者数や公共交通の人口カバー率等を検証し、利用頻度の少ないバス停の統廃合を検討し、効率の良い運行を目指す。
- 運転手の負担を減らすため、1便当たりの運行時間やダイヤの見直しを検討する。

★運行収支の改善

- 各路線ごとの利用者数を検証し、車両の小型化等について検討し、コストの削減を目指す。
- 燃料費・人件費の上昇の影響を鑑み、近隣市町の状況について調査・研究し、適正な運賃について検討する。